

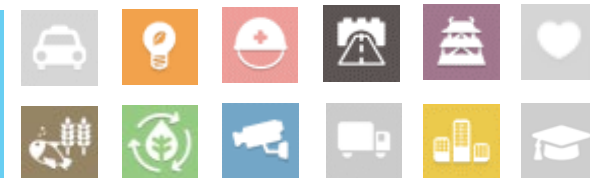
実施地域

富山県 富山市

実施団体

富山市

対象
都市課題



対象地域の特徴・課題・目標（目指すスマートシティ像）

I. 富山市の概要

富山市は富山県の県庁所在地で人口約41万3千人、面積1,242km²の都市である。日本海に面し、神通川、常願寺川という2つの大きな一級河川によって形成された広い平野部と3,000メートル級の山岳といった多様な地形を持つ。

東京、大阪の2大都市圏からほぼ等距離にあり、東京まで新幹線で2時間16分で移動できる。

II. 都市の対応すべき主な課題とスマートシティ事業の目的

「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」に取り組んでいるが、少子高齢・人口減少が進行する中、互助・共助による地域活動におけるマンパワーの不足、広い市域に配置している官民インフラの適正な維持管理等が課題。

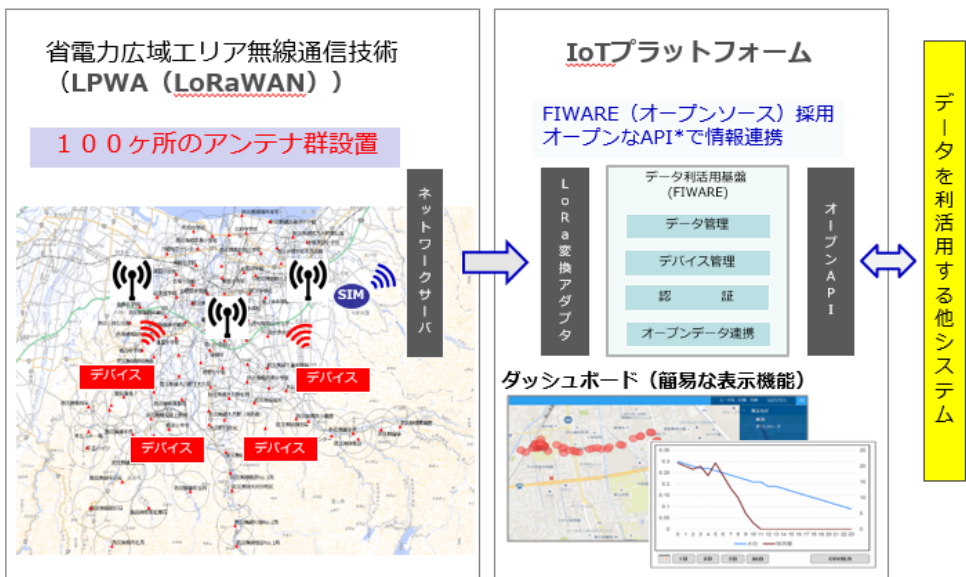
III. 富山市のスマートシティ事業の特徴

市全域（居住人口98%）をカバーするLPWA網とIoTプラットフォームからなる「富山市センサーネットワーク」を整備。市自らがプラットフォームとなりIoT利用環境を提供することで、新たな技術を活用した「地域連携モデル」の検討や、IoT技術による各種業務の効率化、民間企業等への実証実験公募による新たなビジネスモデルや雇用の創出に取り組んでいる。

■富山県全図



IoT用インフラ「富山市センサーネットワーク」を市自ら整備



①GPSセンサーを活用した「こども見守り事業」

GPSセンサーを小学校児童に貸与。得られた登下校路データを富山大学と共同で分析・「見える化」。PTA、小学校、自治振興会等と共有化し、新たな地域連携モデルを検討

児童が持つGPSセンサー



ランドセルのポケットにしまって通学して貰う。

「見える化」



学校付近の陸橋で児童が滞留

市民との事業成果の共有



②IoT技術開発を後押しする企業向け実証実験公募事業

公募パンフレット

富山市センサーネットワークを活用した実証実験公募 参加者募集

センサーネットワークで、もっとながら、もっどひろがる。

富山県では、IoTを活用して都市機能やサービスを効率化・高度化するスマートシティの実現に向け、独自のセンサーネットワークを構築しました。2020年3月に県営電車の南北線駅事業が完成し、富山の学びあふれる街づくり、暮らしの利便性向上が実現されています。センサーネットワークを貸与し、まち・ひと・データがつながることで、どんな成果が見えてくるか、あなたのアイデアを挑戦してみませんか。

① 2021年度の公募実施期間として富山市センサーネットワークを整備環境。
② 実証実験結果は富山市ホームページ等で紹介、関係機関の連携を後押しします。
③ 実証実験結果発表会を開催し、自治体・民間の連携を後押しします。

<これまでの実績> IT、福祉、農業と幅広い分野において、4,5事業を採択

- <民間事業者向け事業>
 - 高齢者支援サービスの提供
 - 高齢者支援サービスの提供
 - 高齢者支援サービスの提供
 - 高齢者支援サービスの提供
 - 高齢者支援サービスの提供
- <民間事業者向け事業>
 - 高齢者支援サービスの提供
 - 高齢者支援サービスの提供
 - 高齢者支援サービスの提供
 - 高齢者支援サービスの提供
 - 高齢者支援サービスの提供

2021年4月より随時募集!

詳しくはこちらで検索! 富山市センサーネットワーク

富山市センサーネットワークを実証実験環境として無償提供する民間事業者向け公募を2019年から実施。2019年23事業、2020年22事業を採択

成果報告会の様子 (2019年)



③IoT技術等の庁内業務への利活用と市民サービスの向上

各種IoTセンサーを庁内業務へ導入。市民サービスの向上と庁内業務の効率化を図る。有益な情報は市民向け情報公開サイト「Toyama Smart City Square」で積極的に公開

河川水位を市民へリアルタイム配信

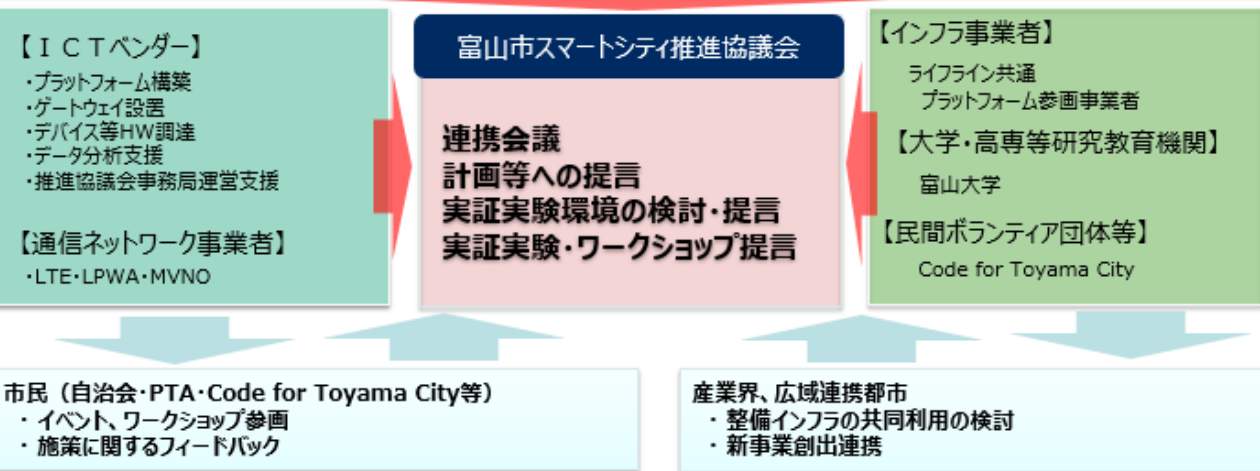
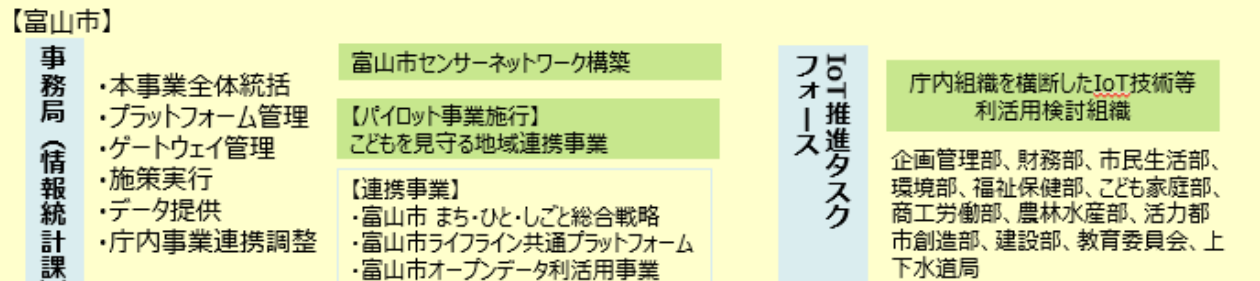


消雪装置や橋りょう等を遠隔監視



◇ 実施体制図

- ✓ 事業全体は市が推進。
- ✓ 広く意見を聴取するため、産学民官からなる富山市スマートシティ推進協議会を設置
- ✓ 庁内組織を横断したタスクフォースを設置し、IoT技術等の利活用促進を図る。



◇ プロジェクトのスケジュール

5年後のあるべき姿

富山市センサーネットワークの活用を通じて
IoTセンサーの活用が当たり前な
省エネルギーで持続可能な社会を目指す

事業項目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
0. 富山市センサーネットワークの構築	実施				
1. センサーネットワークを活用した実証実験実施		2019年度より、継続的に実施			
2. 庁内事業への展開、事業化		庁内TFの実施		予算化・事業化	
3. 民・民間の検討委員会・ワーキンググループ		設立		各事業への展開	
4. 民間活用時の有償サービスモデルの検討・事業化			検討	モデル検討	検証
5. 収集データのオープン化検討		調査・検討		展開	
6. 近隣市との自治体クラウド化モデルの検討				検討	
7. 次世代ネットワーク・新規格・インフラ更新への対応				調査	検討

IoTセンサーの活用が当たり前な省エネルギーで持続可能な社会へ

◇ その他（受賞歴、政府が進めるスマートシティ事業への選定 等）

- 2018年 総務省「データ利活用型スマートシティ推進事業」に採択
- 2019年 内閣府「未来技術社会実証事業」に採択
- 2019年 内閣府「まち・ひと・しごと地方創生推進交付金Society5.0タイプ」に採択
- 2020年 国土交通省「i-Construction大賞 地方公共団体等の取組部門 大臣賞」受賞